

## 多賀城市「ゼロカーボンシティ」宣言

近年、地球温暖化が進行し、日本各地において自然災害が頻発化・激甚化し、私たちの生活に大きな影響を及ぼす極めて深刻な状態となっています。地球温暖化は二酸化炭素などの温室効果ガスの増加が原因と言われており、日本政府では、令和2年（2020年）10月に、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを表明しました。

このような状況を踏まえ、本市は世界そして日本を構成する責任ある主体として、その行動理念を明らかにし、地球温暖化対策に関する積極果敢な取組みの推進に繋げるため、令和4年（2022年）2月3日（木曜日）の定例記者会見において令和32年（2050年）までに市内の二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すことを表明しました。



### 多賀城市「ゼロカーボンシティ」宣言

近年、地球温暖化に起因すると言われる気候変動の影響により、世界規模で深刻な自然災害が発生しています。日本各地においても、猛暑や集中豪雨などの自然災害が頻発化・激甚化しており、私たちの生命や財産を脅かすだけでなく、自然環境に悪影響を及ぼすなど、極めて深刻な事態となっています。

2015年に合意されたパリ協定により、「産業革命からの平均気温上昇を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、日本政府は2020年10月に2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを表明しました。

多賀城市は、市域が狭小な上に都市化が進んでいるものの、豊かな自然環境が生活圏の中に数多く存在しています。特に、北部を中心に緑豊かな樹林地などの自然環境が保全されており、その多くは、貴重な史跡群と一体となって多賀城市ならではの歴史的風致を形成しています。多賀城市はこれらの特徴的で豊かな自然環境を守り、持続可能で安心して暮らせるまちを将来の世代にわたって引き継いでいくため、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すことを宣言します。

令和4年2月3日

多賀城市長

深谷晃祐